

◆ 今週のコメント

- 急性脳炎の報告が1例ありました。本年4例目となり、年齢は、すべて0歳です。第38週までの累積報告数では、全数把握の対象となった平成16年以降、平成19年(5例)に次いで、2番目に多くなっています。
- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は、0.39(16例)で、第33週(8月16日～8月22日)以降、6週連続で増加しています。今後の動向に御注意ください。
- 流行性耳下腺炎の定点当たり報告数は、0.66(27例)で、本年第4週(1月25日～1月31日)以降、過去5年平均値を上回る状態が続いています。年齢階級別では、5歳が7例(25.9%)と最も多くなっています。
- RSウイルス感染症の定点当たり報告数は、0.02(1例)で、第34週(8月23日～8月29日)以降連続して報告があります。全国の定点当たり報告数は、0.25で、例年よりも早く増加しています。

◆ 今週のトピックス: <インフルエンザ>

インフルエンザの定点当たり報告数は0.04(3例)です。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数把握の感染症

- 二類:結核 1例(肺結核 1例, 肺外結核 なし, 潜在性結核感染者 なし), (喀痰塗抹陽性 1例)
【1月以降の累積報告数 251例(肺結核 158例, 肺外結核 66例, 潜在性結核感染者 27例), (喀痰塗抹陽性 72例)】
- 五類:急性脳炎 1例 (第36週分)【1月以降の累積報告数 4例】

定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点68, 小児科定点41, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ ^a	インフルエンザ	0.04	3
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	2.37	97
	② 流行性耳下腺炎	0.66	27
	③ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.39	16
	③ 水痘	0.39	16
	⑤ 手足口病	0.34	14
眼科	流行性角結膜炎	0.80	8

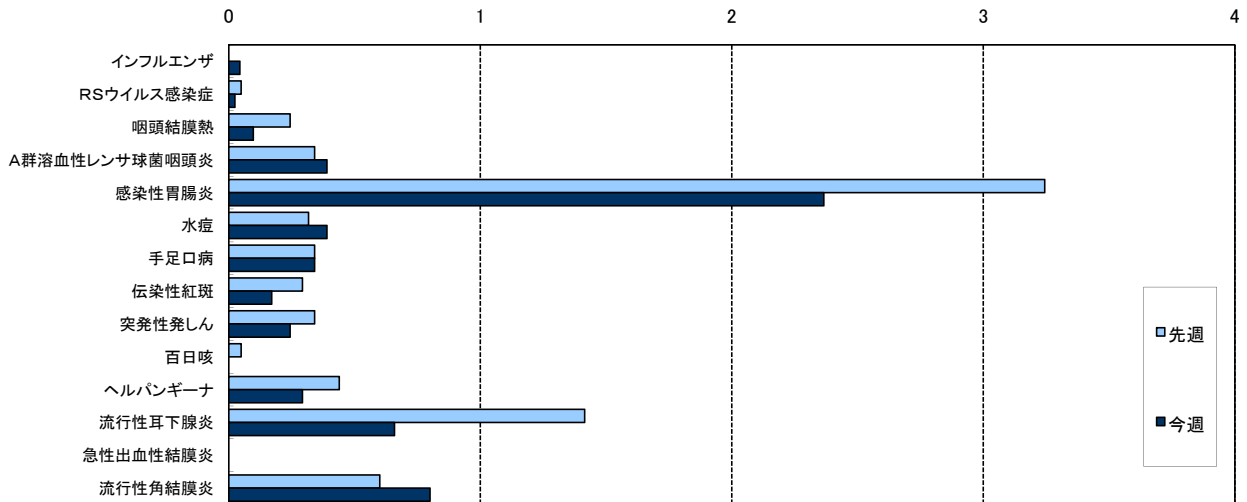
【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <インフルエンザ>

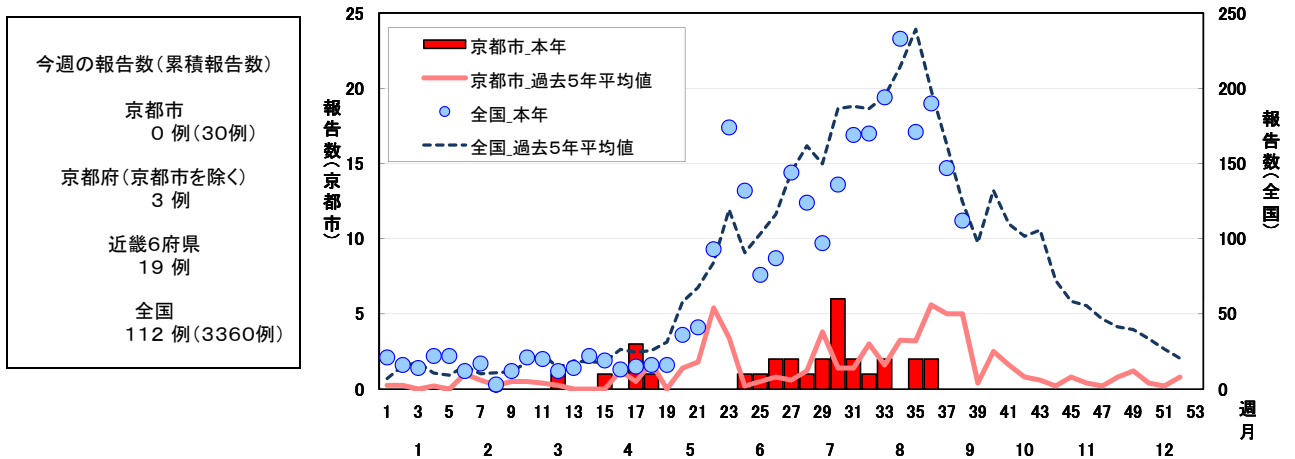
(注) 京都市のデータは、平成22年9月30日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。
また、本情報での患者数は、届出医療機関所在地での集計で、患者の住所を示すものではありません。

◆ 発生状況の概況グラフ

1 今週(第38週)と先週(第37週)の定点当たり報告数の比較

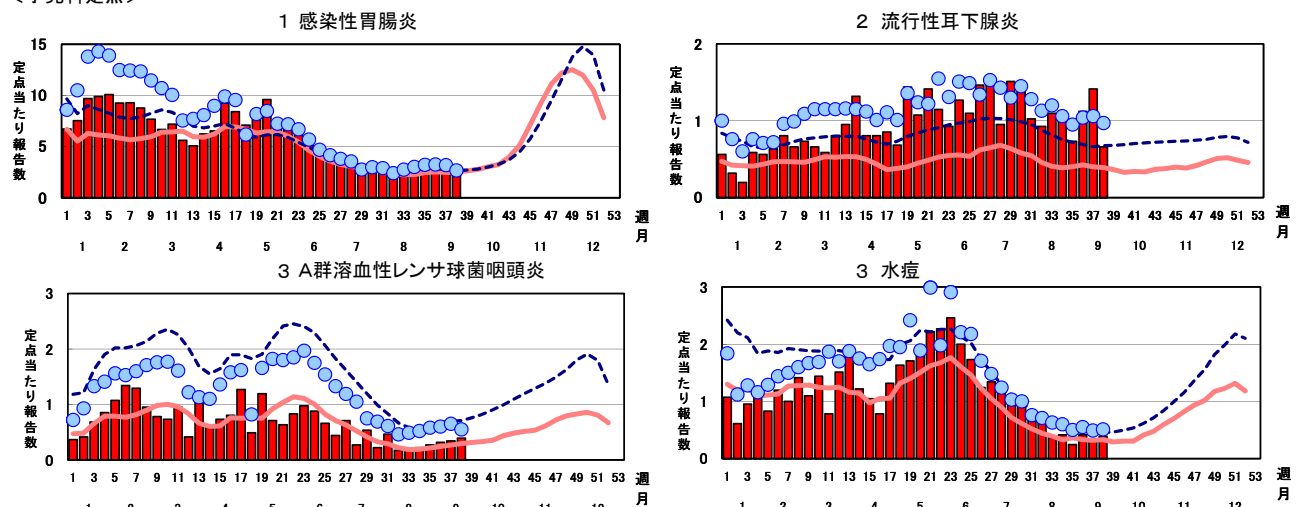


2 腸管出血性大腸菌感染症(三類感染症)の推移

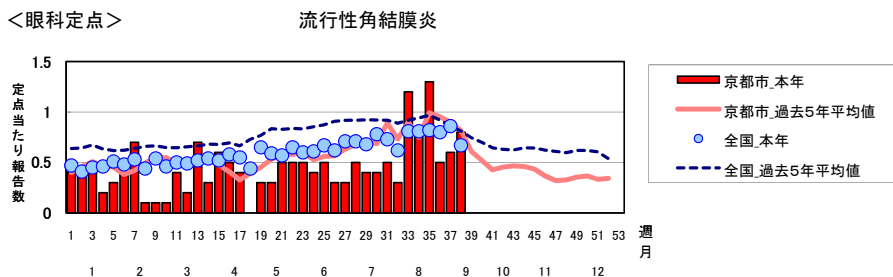


3 主な感染症の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>



<眼科定点>



第38週(9月20日～9月26日)トピックス: <インフルエンザ>

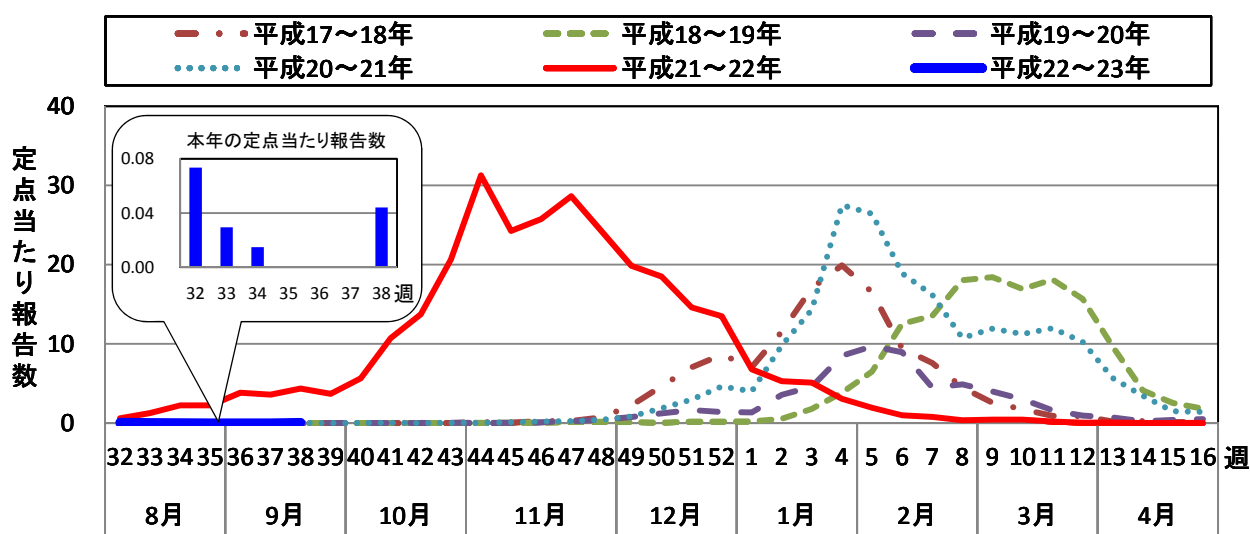
インフルエンザの定点当たり報告数は0.04(3例)です。昨年は、新型インフルエンザ(A/H1N1)の流行のため、8月から報告数が多くなりました。昨年を除いた過去5年では、8月～9月の間に、ほとんど報告がありませんでしたが、本年は、少数ながら、報告のある週が散見されます。

感染症情報センターに報告された、全国のインフルエンザウイルス分離・検出数をみると、本年第2週からB型が、第8週からAH3亜型が検出されています。また、8月に新潟県でAH3亜型、9月に入ってから、沖縄県でAH3亜型、茨城県でAH1pdmの集団感染が報告されています。本年は、AH1pdm以外のウイルスも検出されており、新型インフルエンザに加えて、季節性インフルエンザの流行にも注意が必要です。

京都市においても、新型インフルエンザワクチンを含んだ3価ワクチンの接種が、10月1日(金曜日)から開始されています。詳細は、京都市のホームページをご覧ください。

<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000088878.html>

本市の定点当たり報告数の推移



全国のインフルエンザウイルス分離・検出数

